

## 2013.3.2 高等研究所シンポジウム

### 講演タイトル

「徳川将軍のページェント—日光社参における将軍権威発露の諸相—」

椿田有希子

### 講演要旨

徳川将軍の日光参詣（日光社参）については、従来、武威が発露される場としておおむね理解されてきた。社参が軍事色を濃厚に帯びていたのは事実であるが、一方で幕藩領主が剥き出しの武威を以て民衆に対することは殆どなかったとの指摘もある。では果たして幕府は、社参行列を通じ、どのように将軍権威を民衆に示したのだろうか。本報告では、天保14年(1843)の社参を事例に、行列を祝祭的雰囲気で見込ませるために幕府が施した様々な「演出」を紹介し、日本近世における権威表象のありかたについて考察する。

### プロフィール

椿田有希子（つばきだゆきこ）



1974年 横浜市生まれ

2010年 早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻  
博士後期課程退学

2012年 博士（文学）

現在 早稲田大学大学院文学研究科研究生

主著：「天保の日光社参と海防問題—浦賀御固め体制を事例  
に—」（『早稲田大学大学院文学研究科紀要』54-4、2009年）

「日光社参を見る眼—天保期における将軍権威の変質と民  
衆—」（『日本歴史』771、2012年）、「下田・羽田奉行所の  
設置と江戸湾防備網構想—天保14年日光社参前後の動向  
を中心に—」（『関東近世史研究』72、2012年）、など。